

第4部

外部有識者事業評価委員会 による2次評価



外部有識者事業評価委員会による 2次評価について

JICA 評価検討委員会委員長 理事 黒木 雅文

JICAは、2002年度から外部有識者事業評価委員会を設置し、外部の有識者のご助言を得つつ、評価体制の強化と評価結果の活用を通じた事業改善に取り組んでいます。その一環として、評価結果の透明性と客観性を高めるために、2003年度から、JICAが実施したプロジェクト終了時評価の評価（2次評価）を外部有識者事業評価委員会に行っていただき、その結果を「事業評価年次報告書」において公開してきています。2007年度についても、外部有識者事業評価委員会のもと、日本評価学会のご協力を得て、評価に精通した外部第三者からなる作業部会を設置して2次評価を行っていただきました。次ページ以降に、その結果を掲載しています。

2次評価では、まず、JICAが2006年度に実施した終了時評価（1次評価）の質はどうか評価されました。また、1次評価の報告書に盛り込まれた情報に基づき、外部第三者による各プロジェクト自体の評価が行われました。さらに、今回はこれに加えあらたな試みとして、各プロジェクトの評価結果に基づくレーティング（格付け）も行っていました。

1次評価の質については、9つの評価項目すべてにおいて、評点の平均が5段階の3以上のレベルを満たしており、また、2003年度に比べて2004、2005、2006年度のほうが1次評価の質が向上しているという評価をいただきました。

一方、貢献・阻害要因などから抽出した教訓を具体的に示すこと、在外事務所による評価の質の向上に向けた取り組みがさらに必要であることなど、JICAとして改善すべき事項の指摘がなされています。

プロジェクト自体の評価についても、5つの評価項目のいずれにおいても評点の平均が5段階の3以上であり、また、2003年度に比べて2004、2005、2006年度のプロジェクトのほうが、高い評点となりました。さらに、各年度のプロジェクトについて評点に基づきレーティングを行った結果、年度の推移とともに、評価がB以上の案件が増加、D以下の案件が減少していることが明らかになりました。今後プロジェクトの質をより高めるためのポイントとして、プロジェクト目標と上位目標の因果関係をより明確にすること、計画立案時に指標や目標値を適切に設定することなどが提言されています。

JICAとしては、今後ともこうした第三者の視点からの2次評価結果をふまえて、より効果的・効率的な事業の実施と、事業評価の改善に取り組んでいく所存です。

最後になりましたが、50冊（過年度分も含めると67冊）にのぼる終了時評価報告書をさまざまな角度から吟味の上、工夫を凝らして2次評価を実施し、貴重な提言をしてくださった外部有識者事業評価委員会および2次評価作業部会の皆様に心より感謝申し上げます。